

土木学会安全問題討論会'16 論文募集

「レジリエントな社会構築に資する人材育成を考える」

土木学会安全問題研究委員会（委員長：香川大学・白木 渡）では、定期的に安全問題討論会を開催して、学会内外から広く参加者を募り、安全問題に関して自由に意見交換できる場を提供して参りました。

平成 25 年 12 月 11 日、首都直下地震並びに南海トラフ巨大地震に対する対応として、国土強靱化基本法を公布・施行した。この法律では、いかなる災害が発生しても「人命保護」「国家・社会の重要機能維持」「国民財産・公共施設の被害最小化」「迅速な復旧・復興」を目標に、「強さ」と「しなやかさ」を持ったレジリエントな国土・地域・経済社会の構築に向けた「国土強靱化」を推進するとしている。この政府の考え方の中心として、想定外の事態に対しては、ソフトな取組を主体とした仕組みづくりを推進することとしている。その基本となるのがレジリエンスという考え方であり、想定外にも対応可能な安全確保の新しい手法として「レジリエンスエンジニアリング」が注目されてきた。この手法では、「レジリエンスは、環境の変化や外乱の発生前・発生中・発生後で、社会のなかで活動を続ける組織や技術システムがその機能を調整し、想定内・想定外いずれの状況でも必要な行動・動作を維持できる能力（予見能力・監視能力・対処能力・学習能力）である。」と定義している。そして、これら 4 つの能力に着目し、システム（人や組織を含む）を設計・マネジメントすることを目指している。

以上のような観点から、安全問題研究委員会では、このレジリエンスエンジニアリングの考え方に注目して、社会基盤システムが、想定内および想定外のいずれの状況でも必要な行動・動作を維持できるように設計・施工・維持管理できる、レジリエントな技術者を育成するための教育・人材育成が重要と考えて研究活動を続けている。

そこで、本年の安全問題討論会は、「レジリエントな社会構築に資する人材育成を考える」を総合テーマとして特集を組み、テーマ論文を募集します。

また、一般論文として、建設安全問題、労働安全、ヒューマンエラー、リスクマネジメント、事故事例分析、モニタリングと安全、安全システムなど、安全問題に関する幅広いテーマについての論文投稿も歓迎します。

つきましては、下記要領で討論会の実施ならびに論文募集を致します。会員・非会員を問わず安全問題に取り組んでおられる皆様からの積極的なご応募をお願い致します。なお、ご投稿いただいた論文は、土木学会論文集の査読基準に基づいて採否を決定させていただきます。採択された論文は、土木学会論文集 F6 の特集号（2017 年 1 月発行予定）に掲載させていただきます。論文掲載には土木学会論文集の規定に従って掲載料が必要です。また、11 月 30 日（水）に開催する「安全問題討論会'16」で発表させていただきます。

1. **開催日**： 2016 年 11 月 30 日（水）
2. **会場**： 土木学会講堂及び EF 会議室
3. **内容**： レジリエントな社会構築に資する人材育成に関する基調講演、テーマ論文・一般論文の発表
4. **論文募集の詳細**

(1) **論文内容**：

I. テーマ論文：「レジリエントな社会構築に資する人材育成を考える」に関する論文や報告

事業継続計画 (BCP)、地域継続計画 (DCP)、危機管理、防災教育、災害時対応、レジリエント、その他

II. 一般論文：建設安全問題、労働安全、ヒューマンエラー、リスクマネジメント、事故事例分析、モニタリングと安全、安全システム、その他、安全問題に関する論文

(2) **応募方法**：応募ページからお申込みください。 <http://committees.jsce.or.jp/csp/node/17>

※ 2016 年の応募から、メール応募ではなく、ウェブ応募となりました。必要事項（論文題目、テーマ論文 I・一般論文 II の別、著者名、所属、論文概要（400 字程度）、連絡先（発表者）の氏名、住所、電話、FAX、E-mail）を入力の上、応募ページからお申し込み下さい。

(3) **応募期限**：2016 年 5 月 13 日（金）必着

(4) **原稿書式**：論文原稿は、A4 用紙で 6 から 8 頁でまとめて下さい。

（書式はホームページ <http://www.jsce.or.jp/committee/csp/cspl.htm>）から入手可能

(5) **原稿提出期限**：2016 年 7 月 8 日（金）必着

(6) **論文掲載料**：6 頁：2 万 5 千円、7-8 頁：4 万円、ただし第一著者が非会員の場合は 1 万円加算

(7) **問合せ先**：安全問題討論会実行小委員長 広兼 道幸

（関西大学、hirokane@res.kutc.kansai-u.ac.jp）